

学科 ライフスタイル学科		所感			
氏名 小野 憲一		今まで教育に携わってきた教育理念を可視化するためにも本学の学生に適した授業内容・指導方法の醸成を深化させ改善していきたい。「非認知能力」の重要性を授業でどの様に展開実施していく事を継続し、日々の教育活動に、つなげて行きたいと考えている。			
家政学部の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②家政に関する専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・pisa 型学力を統合的に身に付け、社会に出てからは、これらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することである。					
イ ライフスタイル学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住の面から支援することのできる人材を育成することである。					
ロ 管理栄養学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、管理栄養士の資格を生かして、チーム医療、健康増進・疾病予防、食育・栄養指導又は健康をテーマにした食品の研究・開発等で活躍することによって、人々の日常生活を健康の面から支援することのできる人材を育成することである。					
ハ こどもの生活学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の資格を生かして、こどもたちの学力および社会性・社会力の基礎・基本を育てることによって、人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を育成することである。					
1 教育の責任					
家政学部ライフスタイル学科コースの教員として、2023 年に着任した。教職科目担当の教員として勤務し、前任校の大学教員期間を含めると 20 年間になる。また高校教員としては 20 年間勤務し、教育に計 42 年間携わってきた。その中において「教育」とは次世代を担う学生の人材を育成することである。学校現場に新しい教育が導入されその学生が社会に出たとき、必ずと言っていいほど、旧体制の教育を受けてきた大人たちとの軋轢が生じる。大学教員として、自らの学びを常に刷新している人間でありたい。中高の家庭科教員養成がある中で、教職に就くべき基本的事項の科目を担当している。2024 年度に担当した科目は右の表の通りである。（添付資料 1）	科目名	学科	開講期	受講者数	備考
	教育原理	ライ・管理	1 年後期	11	教職必修
	教育方法論	ライ・管理	2,年後期	21	教職必修
	特別活動の指導法	ライ・管理	3 年後期	24	教職必修
	総合的な学習の指導を宇	ライ・管理	3 年前期	24	教職必修
	教育実践演習	ライフ	4 年後期	12	オムニバス
	教職実習指導	ライフ	4 年前期	12	オムニバス
	教育実習 A・B	ライフ	4 年前期	24	オムニバス
	ライフスタイル学基礎講座	ライフ	1 年前期	36	オムニバス
	ライフスタイル学演習Ⅲ	ライフ	2 年前期	37	オムニバス
	スタジオ C(地域活性)	ライフ	3 年通年	11	卒業必修
	スタジオ入門	ライフ	2 年前期	36	オムニバス
	介護等体験実習	ライフ	3 年後期	15	オムニバス
	卒業論文	ライフ	4 年通年	1	卒業必修
2 教育の理念と目的					
最高学府である大学は、専門教科は当然ながら知識を身に付けていく教育機関であるとともに、学校教育の最終課程でもあると考えるならば、社会人として巣立っていくための力を身に付ける場所でもあると考えられる。自分が教育課程で培ってきた知識や学力といった能力を「認知能力」と呼び、学力試験などでは測ることのでき					

ない人 間の内面に存在する能力や人間力を「非認知能力」と呼んでいる。その「非認知能力」が激変する社会の中で強く、逞しく生きることのノウハウをレクチャーしていく。やり遂げる力：レジリエンス、自己と他者を尊重する力：リ スペクト、さらに、役割や責任を果たす力：レスポンシビリティという 3 つの「非認知能力」の育成に力を入れて 教育を醸成していきたいと願っている。
3 教育方法
主に教員になるための資格関係の授業を担当している。「教育原理」においては、その内容が、日本をはじめ諸外国の教育者や哲学者・歴史的業績、教育制度、教育法規 などの多種多様な範囲に及ぶ、それを端から端まで記憶し、力にすることは到底無理な事である。しかし、現代まで受け継がれて来た根底の理論や内容は、あまり変わることなく脈々と受け継がれている。それはどの様なものなのか、現代に視点を据えて鳥瞰し、過去を見つめ直すことによって新しい考えが発想され、受け継がれていくものだと考える。・「教育方法論」においては、教育方法に関わる思想、学習教授法に関わる理論と技術、学習に関わる認知（記憶・思考等）、学力と教育評価、教材と情報機器やマルチメディアといった内容について学習する。中央教育審議会答申（令和 3 年 1 月 26 日「令和の日本型 学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～）により、学校教育の質向上における ICT 活用について重要性が示された。答申では、大学における教員養成段階において、学生が、人 1 台端末を持っていることを前提とした教育を実現しつつ、児童生徒にプログラミング的思考、情報モラル等に関する資質・能力も含む情報活用 能力を身に付けさせるための ICT 活用指導力を養成することや、学習履歴（スタディ・ログ）の利活用などの教師のデータリテラシーの向上に向けた教育などの充実を図っていくことが求められ、Society/5.0 時代の教師の養成を先導する役割を果たすことが期待されている。その内容を踏まえて授業をわかり易く説明し展開している。・「特別活動の指導法」「総合的な学習の時間の指導法」においては、学校現場のこういったものが「特別活動」にあたるのか確認しながら、その目的と意義を説明し、講義を行っている。また「総合的な学習の時間の指導法」では、他の教科とどのように連携し、児童生徒の主体的・対話的で深い学びを修得できるのかを具体例をあげながら講義を行っている。
4 授業改善の活動
講義の授業振り返りシートと授業評価アンケートを活用し、授業改善を行っている。さらに振り返りシートにおいては、学生がコメントや質問を書いた箇所に来る限り目を通して、コメントを書いてフィードバックするように心がけている。また、FD 研修会の一環として、公開授業を行い、参観していただいた先生方から様々な意見やメントを読み、授業改善に活かしている。（添付資料 2）
5 学生の授業評価
2024 年度後期における授業評価アンケートの結果において、「特別活動の指導法」で評価が高かった項目は Q1「教員 は、授業時間分の学修内容を実施していた」と Q2「教員の説明は、明確で理解しやすかった」Q8「教員が作成した PCR シートは、学修内容の理解に役立った」であり、上記「3.教育方法」における内容が具体的に数値として表出されたと考えられる。また、全体的に標準よりも高い値となったが、回答には「どちらともいえない」を選択した学生がいたことは確かである。今後、授業内容や授業展開などを精査し、一つ一つ丁寧に工夫していく授業を行っていきたいと考える。（添付資料 3）
6 学生の学修成果
授業におけるパワーポイント活用により、視覚的にも重要ポイントを押さえて授業を展開することが出来た。また、一つ一つを丁寧に説明することにより、学生が理解しやすく、事前事後の予習復習がスムーズに行うこと

ができるような工夫をし、毎回の授業において学修の目標やめあてを明確にすることによって、その成果が表出されたものと考えられる。
7 授業科目に関連した教材開発
授業において、関連する書籍や新聞記事などの資料を紹介し、授業内容に適した資料を提示している。教職関係では文部科学省管轄の NITS 独立行政法人教職員支援機構が作成した動画を視聴し、授業内容をさらに深いものとし、授業時における理解度が進むように配慮している。さらに学生の内容理解を確認するために振り返りシートを毎回提出させて、その記述内容から理解度を確認し、重要な学修範囲内で小テストを実施している。(添付資料 4)さらに、教員養成課程が設置されている本学において、学部レベルで「『教科に関する専門的理解』を十分に身に付ける」ために「教科の実際に即した内容とするため、『教科に関する科目』と『教職に関する科目』を架橋する 内容を展開する」ことが考えられる。内容的側面（「何を」教えるのか）を教科専門科目が、方法論的側面（「いかに」教えるのか）を教科教育[教職]科目がそれぞれ担ってきたが、それをつなぐ教材や講義システムの構築を考えている。
8 指導力向上のための取り組み
愛知学泉大学家政学部が主催する FD 研修会に参加し、ICT 活用の講習会で得た指導方法を教育改善の方策の一環として取り入れている。また、パワーポイントの資料に、日本や諸外国の教育者・哲学者、著名人などが発した教育に関連する諺や格言を記し、その内容を説明し、授業に取り組む意識を向上させるとともに学生自身が将来の職種（主に教職を目指す学生）のモチベーションが下がらないように紹介している。学部内の他の教職関連講義を参観し、自分の講義改善の参考にしている。
9 今後の目標
短期的な目標としては、担当科目の授業内容の改善と開拓を行っていききたい。そのためには自らの所属する学会の研修会などで得た知見をフィードバックすることだと考えている。また授業で使用する配布資料・振り返りシート・パワーポイントの内容を精査し、深化していききたい。長期的な目標としては、教職を目指す学生に対して教職科目の授業内容の充実と、愛知県・名古屋市をはじめ、他の都道府県で受検する教員採用選考試験の内容の傾向と対策を段階的に学修できるように支援援助を行い、現役での教員採用選考試験最終合格に結び付けたいと考えている。そのためには教育委員会主催の教員採用選考試験対策等の情報収集や説明会・講習会などに参加し、最近はどの様な傾向と対策が必要なのかを分析し、その内容を還元したいと考えている。
10 添付資料
添付資料 1：「2024 年度シラバス」、添付資料 2：「2024 年度版授業振り返りシート」、添付資料 3：「2024 年度授業 評価案レート集計結果」、添付資料 4：「2024 年度小テスト」